

イタリヤ生れの九州人

イタリアのお正月

ドリアーノ・スリス

ある観光客が初めてイタリアに行き、ちようど大晦日にローマに着きました。これはその人の話。「朝から街を歩いたり買物をした

えてきました。

人々は忙しそうにいそぎ足で歩いており、そんな気持ちに乗って、行く所のない私まで同じ感じて歩いていました。

夜が近づいたらだんだん花火の音がふえて来ました。ホテルに戻って夕食を食べて十一時になったら又外へ出かけてみた所、道を歩いている人がみるみる少なくなって

いったと言う感じてした。車もほとんどなくなってしまう

した。ローマの人々はみんな自分の家

楽しそうに新しい年を待っている

ようですなと思った。

もう花火の音が戦争みたいに聞こえてくる。



異様な雰囲気になったなあと思っ

て半分こわくて半分興奮して道を歩きつづけました。

爆弾の音みたいにちようど十二時

になると急に花火の音が前より激

しくなつて、ビルの窓からいろんな物が降り始めました。

ガラスのびん、テレビ、家具、冷

蔵庫まで恐ろしい音をたてて三十分の間、空から降ってくるのです。

びっくりした私は危いのでビルの

入口の中からその様子を見ていま

した。あとで聞いたら市の清掃員

が来て四時までにはあとかたもな

くきれいに片付けてしまふと言う

事でした。」

この話を聞いたら危いなあと思うけれども、やっぱり僕はローマで

育ちましたのでこの大晦日の気持

ちがよくわかります。

僕も一年中いろんな物をベッドの下に集めて大晦日の夜の十二時に

五階の窓から捨てていました。

危険な習慣ですので禁じられてい

るけれども、新しい年に新しい生

活”と言う気持ちで、ローマの人

は窓から古い物を捨てると一年中

たまつた疲れも一緒に捨てている

ので簡単に止められないと思いま

す。

僕は日本で五回目の正月を迎えますのでローマの大晦日を思い出すと、やっぱりなつかしく思います。